

海里村上 (長崎県志岐)

山海の幸を愛で、荘厳なる自然に浸る

贅を尽くした

新リゾートホテルで過ごす、
至福の一日

深紅の夕陽が海に沈む幻想的な景色。そして、体の芯からほぐれる天然温泉。自然の恵みがもたらす、「馳走」。リゾート・アイランドの志岐で「本物の贅沢」を味わいたい。



↑レストラン「ナオミ」で、シャンパンを飲みながら朝食をとる。イベリコ豚の生ハムなど、本格的なイタリアンを堪能できる。旬の素材の野菜ジュース(中央のグラス)も絶品。

「リゾート・アイランド」と称したくなるほど、玄界灘に浮かぶ小島、志岐には、芳醇な時間が流れている。慌ただしい日常からいっとき離れ、穏やかな自然環境の中に身を置くだけでも、心身ともに寛げること間違いない。

ましてや、その地の絶景を極める海辺に佇めば、さらなる愉悅を覚えることになる。まさにそうした場に立つのが、リゾートホテル「海里村上」だ。全室がオーシャンビューだから、窓を開け放てば、いつでも潮の香りが満ちてくる。

海を眺めながらの爽やかな朝食にはシャンパンが似合い、鮮やかな日没は山海の幸を供する夕食の「馳走」になる。

「すべて本物志向」を掲げる海里村上がオープンしたのは、今年3月。その贅沢な時空間を紹介したい。



↑志岐の西岸、湯ノ本湾を望む絶景の地に立つ「海里村上」。那覇の島が建物と柔らかく包み、島々が遠望できる景色は実に心地よい。



掛け流し天然温泉で寛ぎ、古美術ギャラリーで眼福を。

→源泉から直接、豊富な湯が湧き出る露天風呂。掛け流しの温泉に浸かりながら、沈む夕陽を眺める耽美的な時間を楽しみたい。
1部屋は和室と洋室の2タイプがある。1泊2食付き2名様用の1名料全て、3万1335円～(サービス料、消費税、入湯税込み)。休前日は基本料金3000円増し。和洋室タイプの部屋は、ツインベッド。寝室も広くて気持ちがいい。いちばん広い301号室(下写真2点)は角部屋なので、眺めも絶景だ。120㎡の広さで、6万2125円～。

1小池一夫さんの蒐集した絵画や骨董品が並ぶ「小池一夫ギャラリー兼竹堂」。評々たる美術家の作品や、貴重な骨董品の真贋鑑定などが並び、ホテル内のギャラリーとは思えない。



山海の幸に恵まれる老岐で、旬の素材を存分に食する

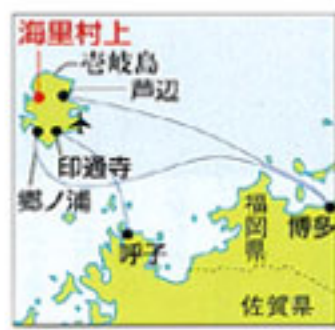
→本格的イタリアン・レストラン「ナオミ」の夕食。手前から、アラのアクアパッツァ(イタリアの伝統料理)とサフランの焼きリゾット、老岐牛ロースのロースト、カルパッチョ(前菜)3種盛り(アラ、ヒラス、海老)。
1「ナオミ」からの夕食も情報費かた。
→和食レストラン「和生」の夕食。季節によって献立は違うが、前列はお造り(鮭の肝、鮎、アラ、ヒラス)、後列右は海老鍋(鮎、アラ、水菜、豆苗、白菜)、後列左が前菜(鮎酒蒸、海老、煮物、玉子味噌湯け、砂ずり醤油揚げ)。



「海里村上」の玄関を入ると、驚くことに、真正面に真っ青な海が広がっていた。思わず息を呑む光景だった。大きなガラス窓を通してさえ、老岐の海はさらさらと輝いていたのだ。心から寛げる休日の予感がして、いつのまにか足の運びもゆっくりになる。通された部屋は落ち着いた和室とベッドルームの洋室。窓外の眺めは湯ノ本湾の海なので、静かな白い波が打ち寄せる、のんびりとした風景である。

老岐で湯ノ本といえば、温泉で著名である。その湯ノ本温泉の一角に、海里村上が立つ。敷地内には、「薬師如来 古湯」の古名をもつ源泉があり、大浴場と露天風呂には源泉から豊富に湧き出る湯が張られ、もちろん掛け流しだ。いかにも天然温泉らしい茶褐色の湯の泉質はナトリウム塩化物泉で、神経痛や筋肉痛、疲労回復にいいとされる。穏やかな作用だから、心身ともに緩やかにほぐれて、なんとも気持ちがいい。

ところで、湯ノ本温泉の歴史は古く、神功皇后が自噴している温泉を見つけ、息子・応神天皇の産湯をつかされたとの伝説が残る。そもそも老岐自体が、日本最古の歴史書「古事記」の冒頭、国生みの神話に記されているのだ。イザナキとイザナミ



「海里村上」長崎県佐賀市本町立石区119-2 ☎0920-43-0770 アクセス/福岡空港から車で博多港フェリーターミナルへ向かい、ジェットフォイルに乗って約50分。老岐の郷ノ浦港または芦辺港から車で約15分。または、長崎空港から飛行機で老岐空港まで約30分。老岐空港から車で約30分。



↑玄関を入ると、広々としたロビー。その向こうには、大きなガラス越しに湯ノ本湾の絶景が出現してくる。この風景も大きなもてなしだ。

の感動が忘れられず、多くの人に体験してほしいと願っていたんです」
何度か老岐に通ううち、村上さんの熱い願いが叶い、ホテルのオープンにこぎ着けた。
「老岐では種々野菜作りも盛んで、知る人ぞ知る老岐牛もある。鮎や雲丹など魚介類も豊富。山海の食材はすべて本物です。温泉も本物。サービスも、お客さまの要望に沿って徹底させています」(村上さん)
徹底したサービスのひとつは、チェックインとアウトが自由なこと。基本はイン14時、アウト12時だが、

客の予定に合わせてくれる。早めに着いても時間を持て余すことなく、帰りの船や飛行機の時間まで滞在できるのが嬉しい。温泉も朝5時から深夜2時まで、清掃時間以外は、いつでも入れるのだ。
さらに、「リクエストできるのが、本物のホテルの証」という村上さん。和食とイタリアンふたつのレストランでは、叶う限りの注文を聞いてくれ、連泊客にはメニューも替える。
裸く海に浮かぶ歴史ある小島、老岐。その「海」の里で、充実したひと時を過ごしてみたい。

高い審美眼で選ばれた、本物の調度品

小池一夫 漫画原作者(70歳)



「海里村上」をプロデュースしたひとり、漫画原作者の小池一夫さんだ。「子連れ狼」他のベストセラーを多数生み出す一夫、大阪芸術大学で教鞭もとる多才の士だ。小池さんの知られ

ざる一面が、幅広い美術蒐集家であること。培われた審美眼で唐三彩、古伊万里、備前などの陶磁器をはじめ、マティス、シヤガール、森田晴平、須田勉太、香月泰男などの絵画やリトグラフを蒐集してきた。
オーナーの村上さんとは無二の親友で、海里村上のインテリアをコーディネートし、自分のコレクションを多数、持ち込んで館内に彩りを添えている。そんな本物に接することができるのも、海里村上ならではの。